

# 令和4年（2022年）の秋田駒ヶ岳の火山活動

仙台管区气象台  
地域火山監視・警報センター

3月から4月にかけて振幅の小さな低周波地震が発生しました。山頂付近では火山性地震の発生頻度がやや高い状態で推移しており、そのうち、女岳<sup>めだけ</sup>付近では地熱活動が継続しています。

## ○ 噴火警報・予報及び噴火警戒レベルの状況、2022年の発表履歴

2022年中変更なし	噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）
------------	----------------------------

## ○ 2022年の活動概況

### ・ 噴気など表面現象の状況（図1～11、図12-①）

東北地方整備局が仙岩峠に設置している監視カメラによる観測では、女岳の噴気は一時的に高さ200mとなりましたが、その他の期間は70m以下で推移し、噴気活動は概ね低調に経過しました。

3月及び4月に陸上自衛隊東北方面隊及び岩手県の協力により実施した上空からの観測では、これまでの観測と比較して、女岳付近の噴気や地熱域等の状況に特段の変化は認められませんでした。

10月に実施した現地調査では、女岳付近の地熱域は引き続き認められましたが、噴気の勢いは弱く大きな変化は認められませんでした。

### ・ 地震や微動の発生状況（図12-②～⑤、図13～図15）

山頂付近では2017年9月以降、そのうち女岳付近では2018年9月頃から火山性地震の発生頻度がやや高い状態が継続しています。

山頂付近が震源と推定される低周波地震は、3月及び4月にそれぞれ2回発生しました。火山性微動は観測されませんでした。

### ・ 地殻変動の状況（図16、図18）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページで閲覧することができます。

[https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土交通省東北地方整備局、国土地理院、東北大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」及び「電子地形図（タイル）」を使用しています。



図1 秋田駒ヶ岳 女岳周辺の噴気と地表面温度分布の状況（可視：3月22日、赤外：3月11日）

- ・ 上図：東北地方整備局が設置している仙岩峠監視カメラ（女岳山頂の南約5km）の可視及び赤外映像です。
- ・ 下図：東北地方整備局が設置している熊ノ台監視カメラ（女岳山頂の南西約4km）の映像です。

女岳からの噴気の高さは、2月及び3月に一時的に200mとなりましたが、その他の期間は70m以下で推移し、噴気活動は概ね低調に経過しました。

また、女岳の地熱域に特段の変化は認められませんでした。

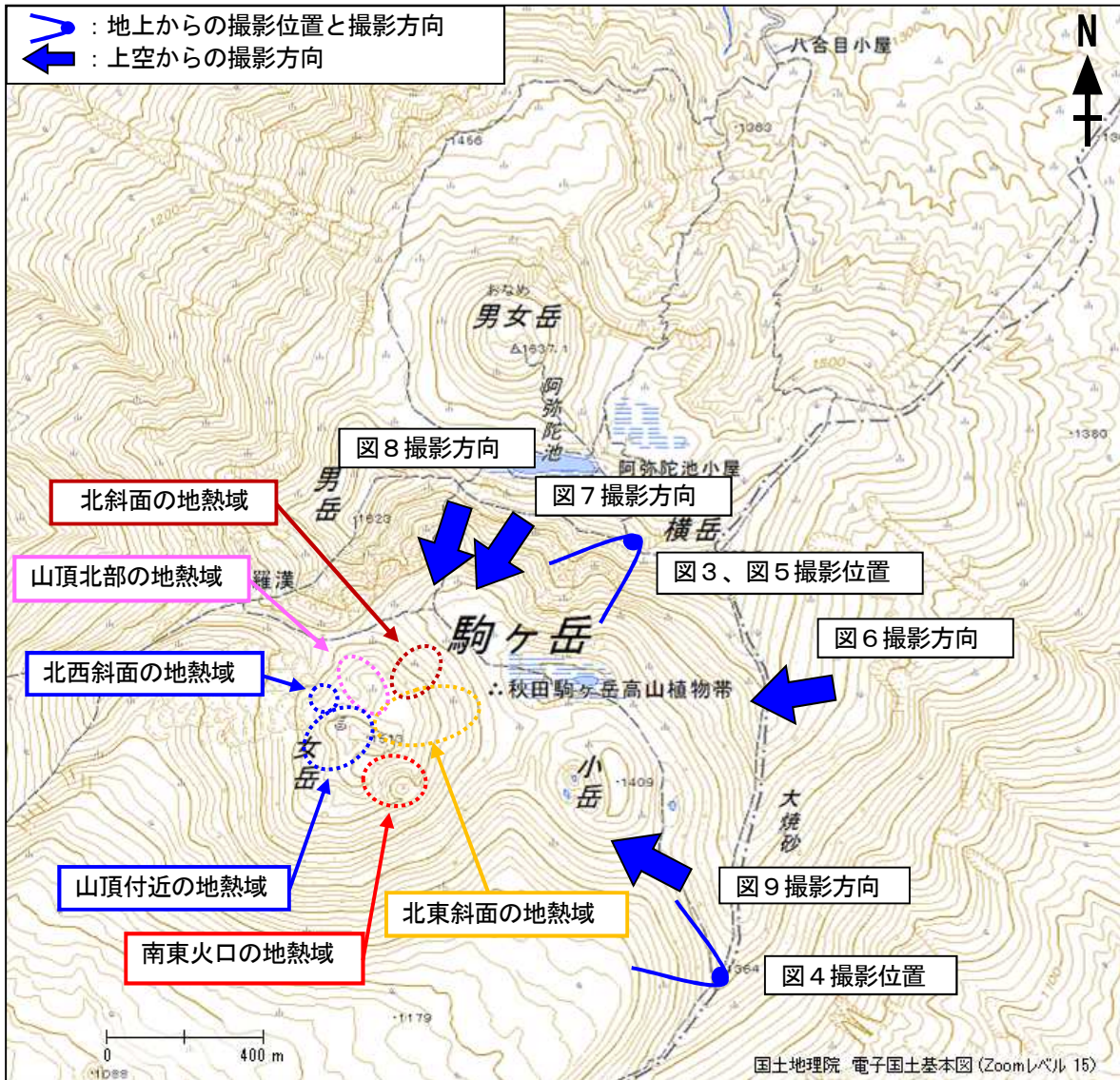


図2 秋田駒ヶ岳 女岳の地熱域の分布並びに写真と地表面温度分布の撮影位置及び撮影方向

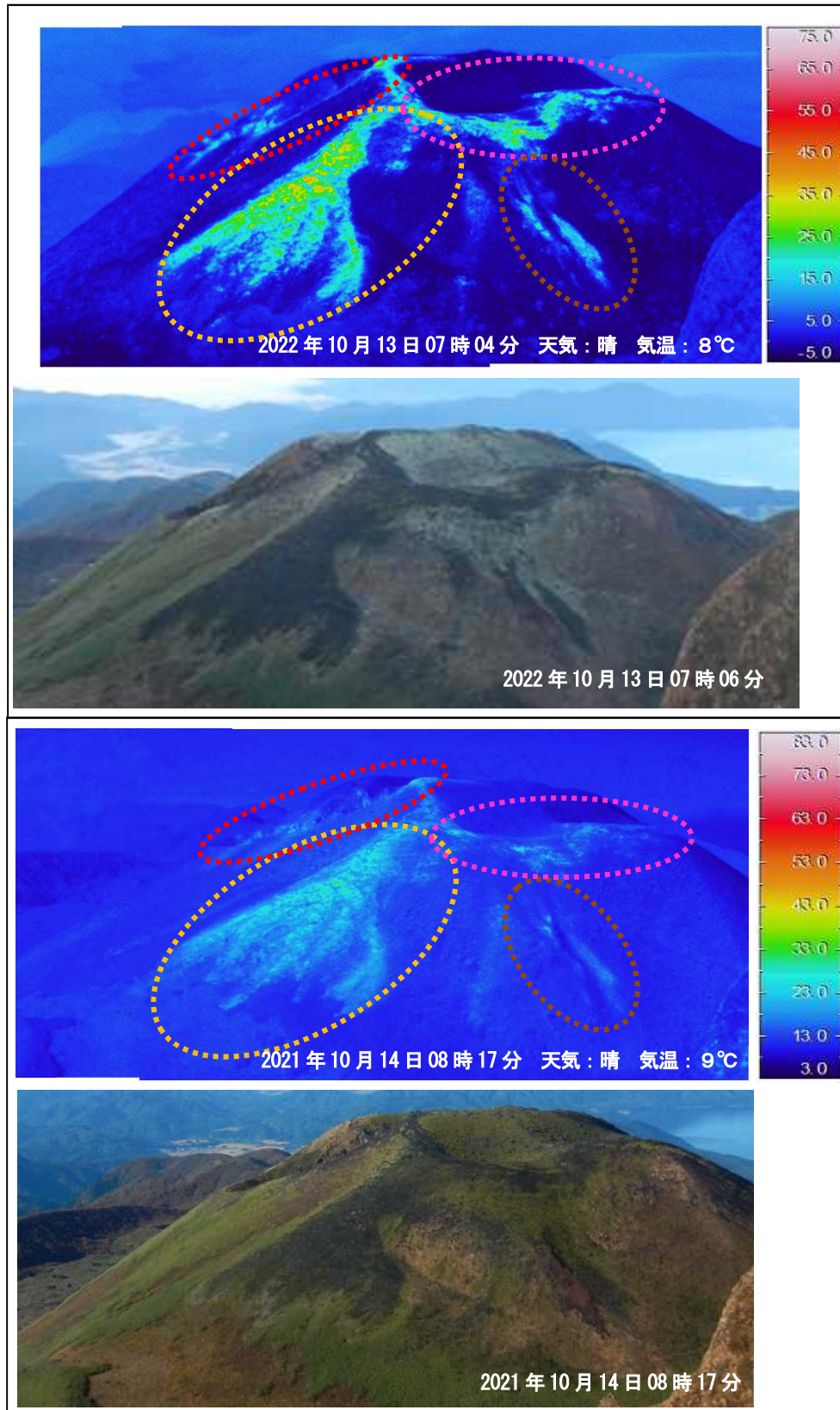
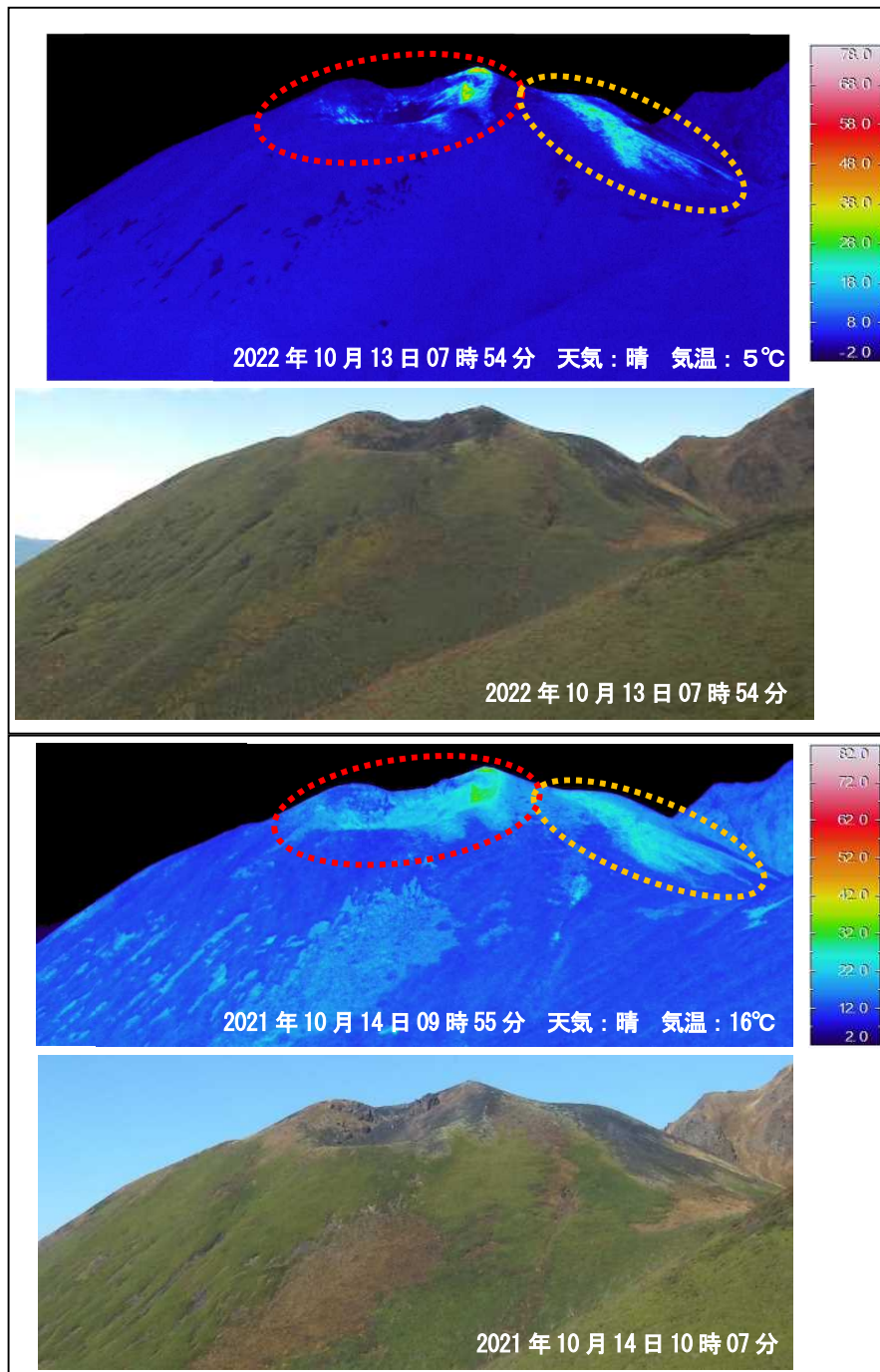


図3 秋田駒ヶ岳 北東方向から撮影した女岳の状況と地表面温度分布

・図中の破線の色は図2に対応します。

※今回の観測では、周囲の地温が低いために、地熱域と非地熱域の温度差が大きめに表示されている可能性があり、地熱域の温度やその広がりには大きな変化はありません。

女岳周辺の地熱域において、引き続き地熱、噴気活動が継続していることを確認しました。



**図4 秋田駒ヶ岳 南東方向から撮影した女岳の状況と地表面温度分布**

・図中の破線の色は図2に対応します。

※日射の影響により、裸地等では表面温度が高めに表示されています。破線領域外の地表面温度の高い領域は日射による影響で、地熱域ではありません。

※今回の観測では、周囲の地温が低いために、地熱域と非地熱域の温度差が大きめに表示されている可能性があり、地熱域の温度やその広がり大きな変化はありません。

女岳周辺の地熱域において、引き続き地熱、噴気活動が継続していることを確認しました。

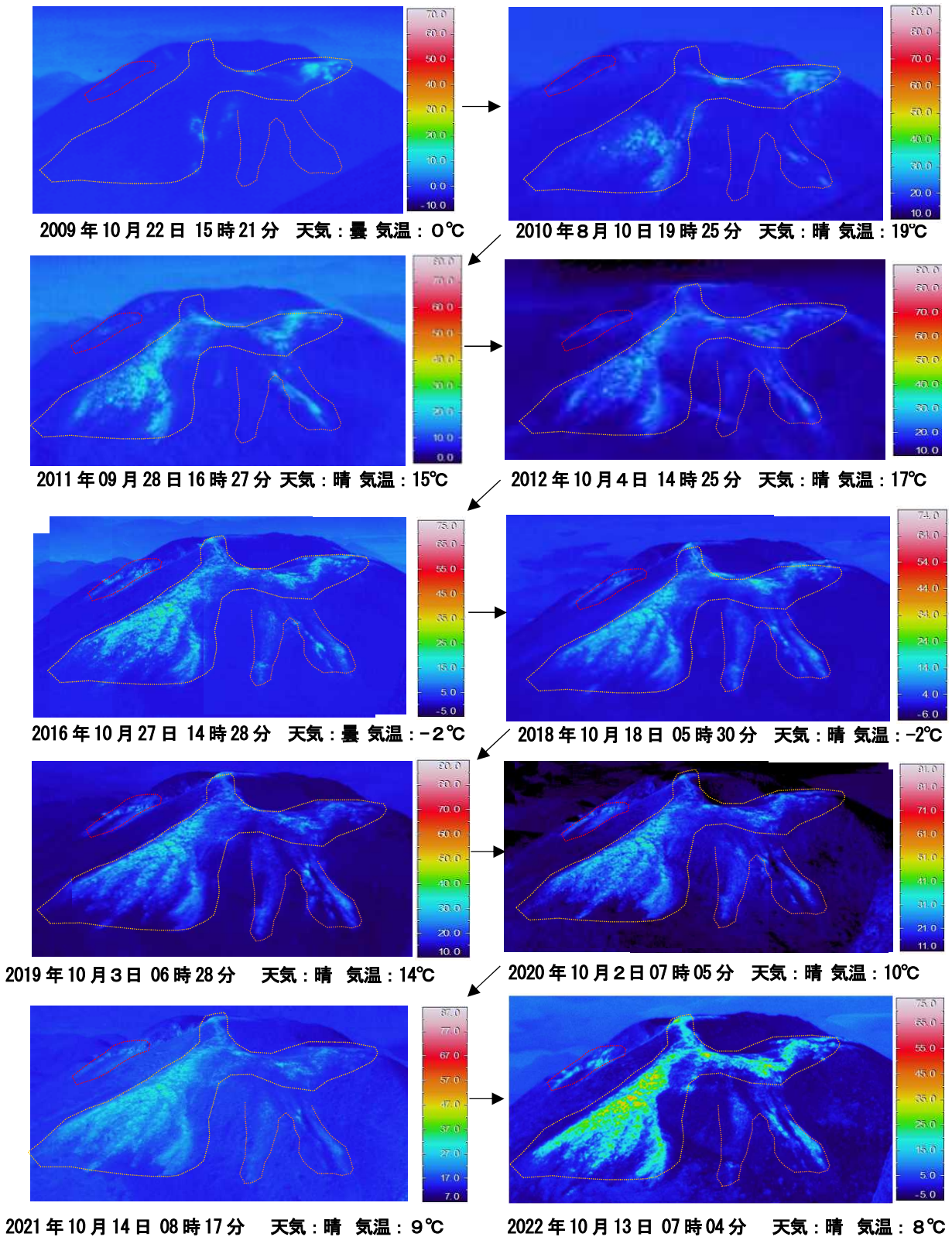


図5 秋田駒ヶ岳 北東方向から撮影した女岳の地表面温度分布の時系列変化 (2009年10月～2022年10月)

※図中の破線は現在の地熱域のおおよその範囲を示しています。

※2022年の観測では、周囲の地温が低いために、地熱域と非地熱域の温度差が大きめに表示されている可能性があり、地熱域の温度やその広がり大きな変化はありません。

女岳周辺の地熱域は、2009年頃から2015年頃まで拡大が認められ、現在も地熱活動が続いています。

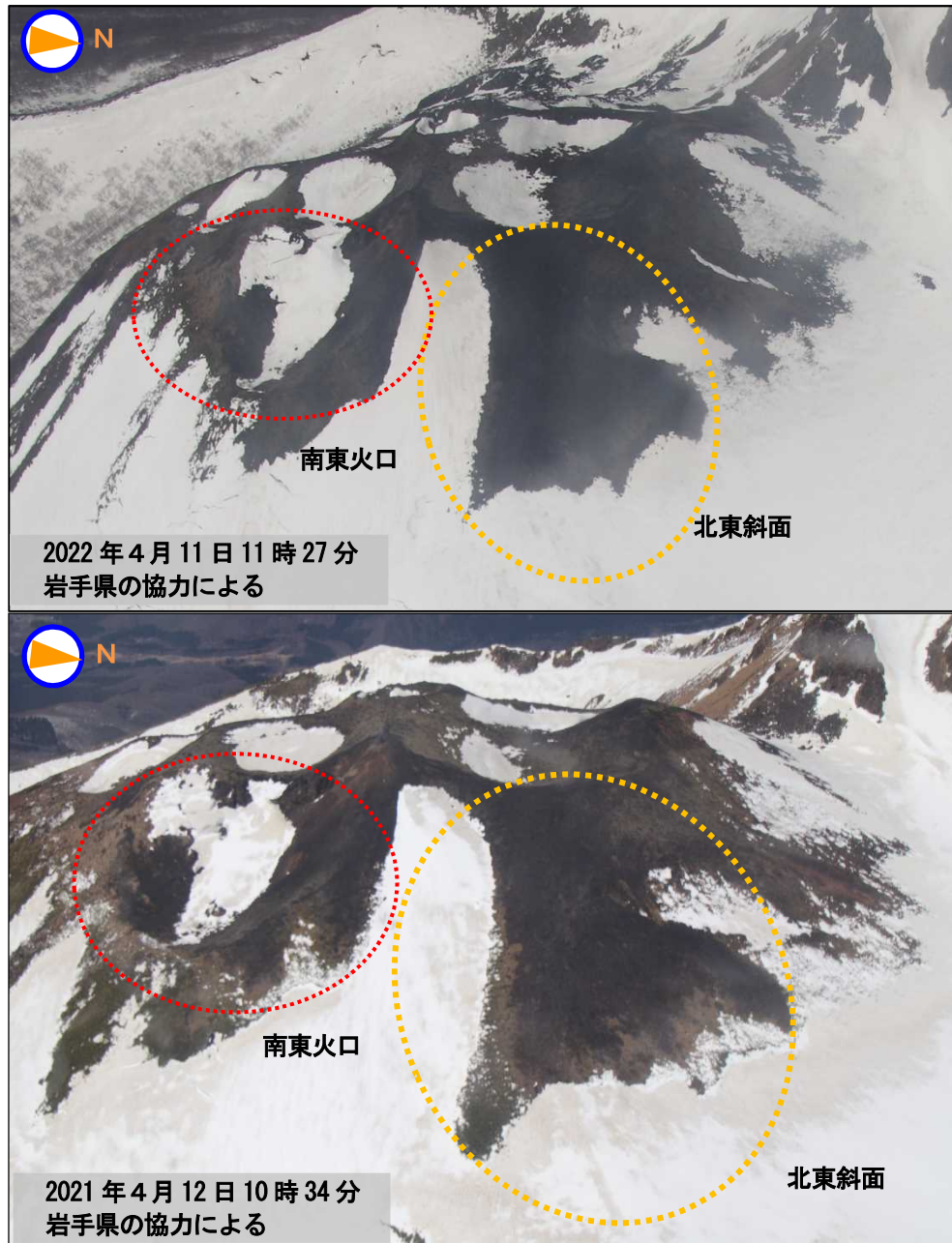


図6 秋田駒ヶ岳 上空からの南東火口及び北東斜面の状況

・図中の破線の色は、図2の線の色に対応します。

南東火口、北東斜面の状況に特段の異常は認められませんでした。

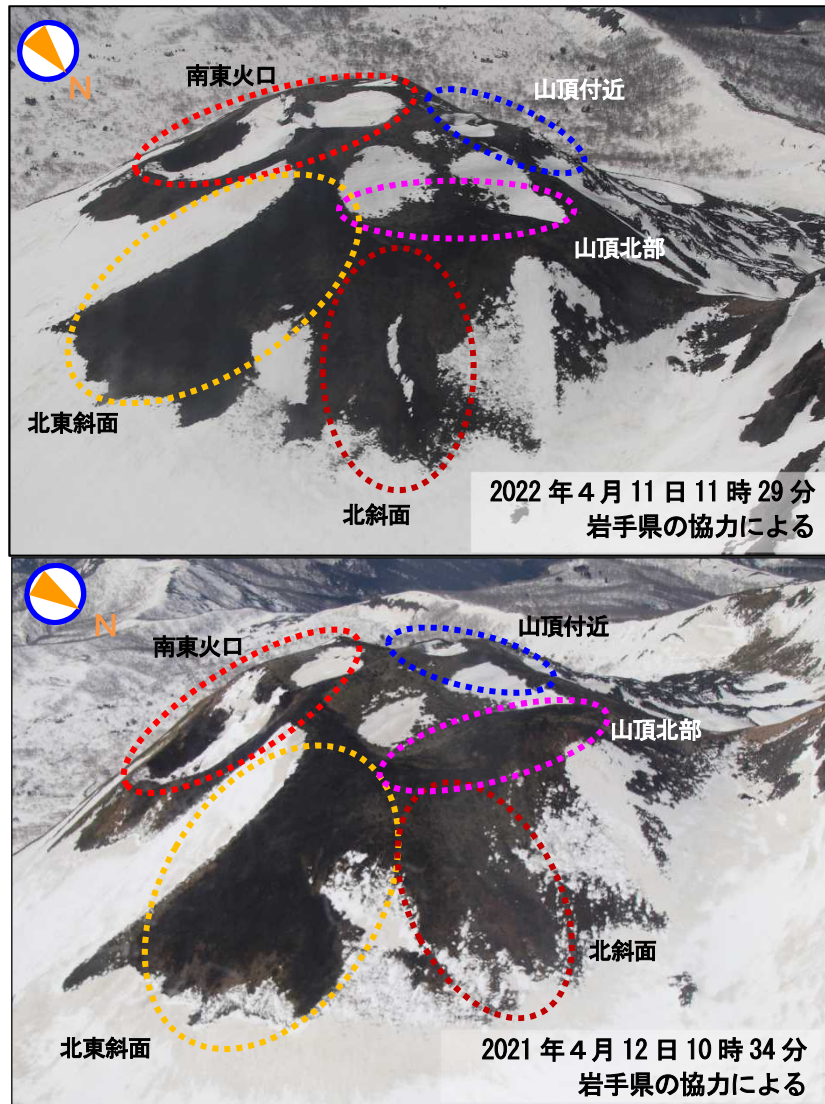


図7 秋田駒ヶ岳 上空からの南東火口、北東斜面、北斜面、山頂北部及び山頂付近の状況  
・図中の破線の色は、図2の線の色に対応します。

南東火口、北東斜面等の状況に特段の異常は認められませんでした。



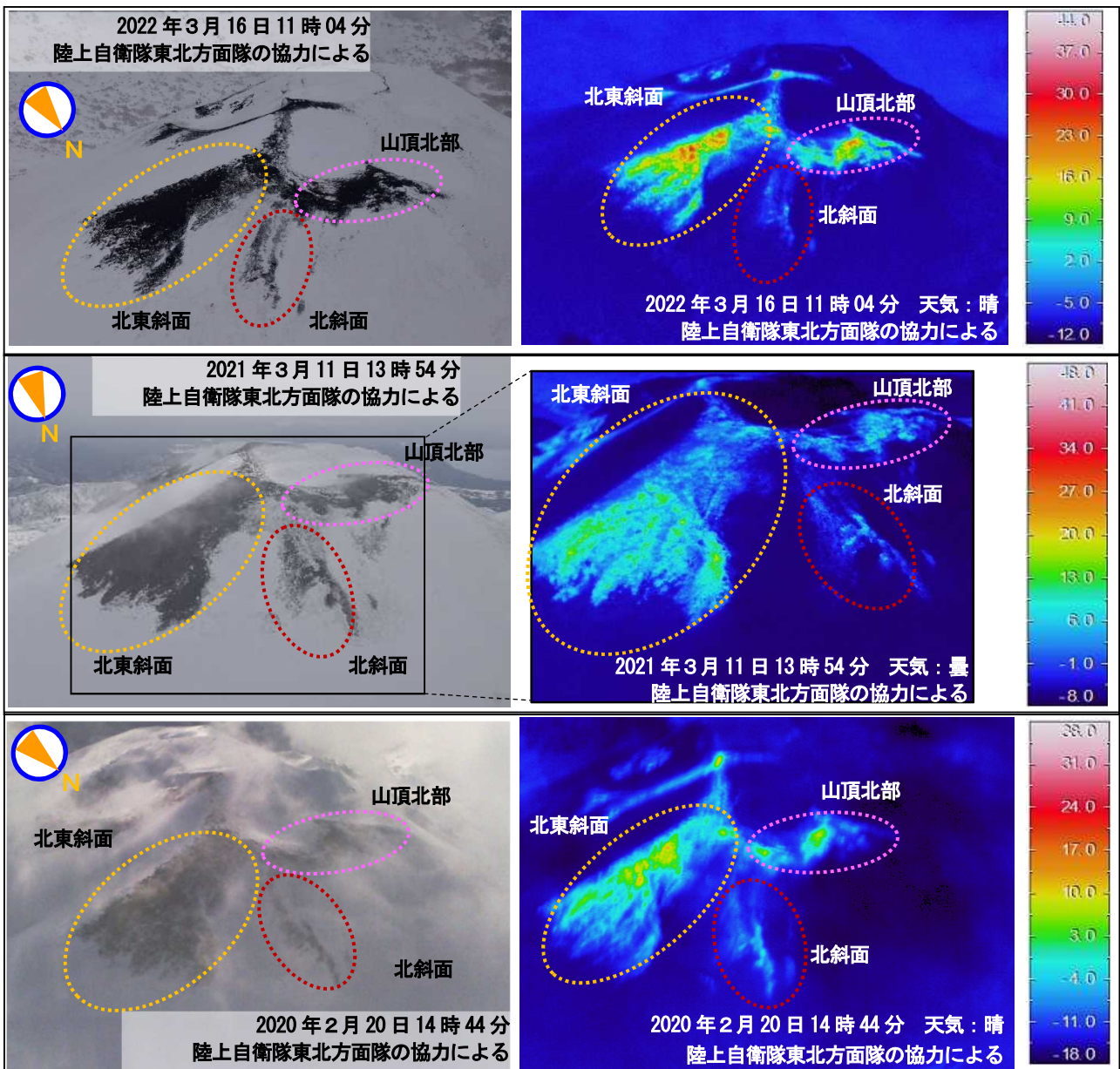


図8 秋田駒ヶ岳 上空からの女岳山頂北部、北東斜面及び北斜面の状況と地表面温度分布

・図中の破線の色は、図2の破線の色に対応します。

※日射の影響により、裸地等では表面温度が高めに表示されています。

※2021年、2020年の観測では、雲や噴気等の影響により、今回の観測に比べて温度がやや低めに表示されていると考えられます。

女岳山頂北部、北東斜面及び北斜面の地熱域の状況に大きな変化はなく、目視による観測では噴気の状態に特段の変化は認められませんでした。

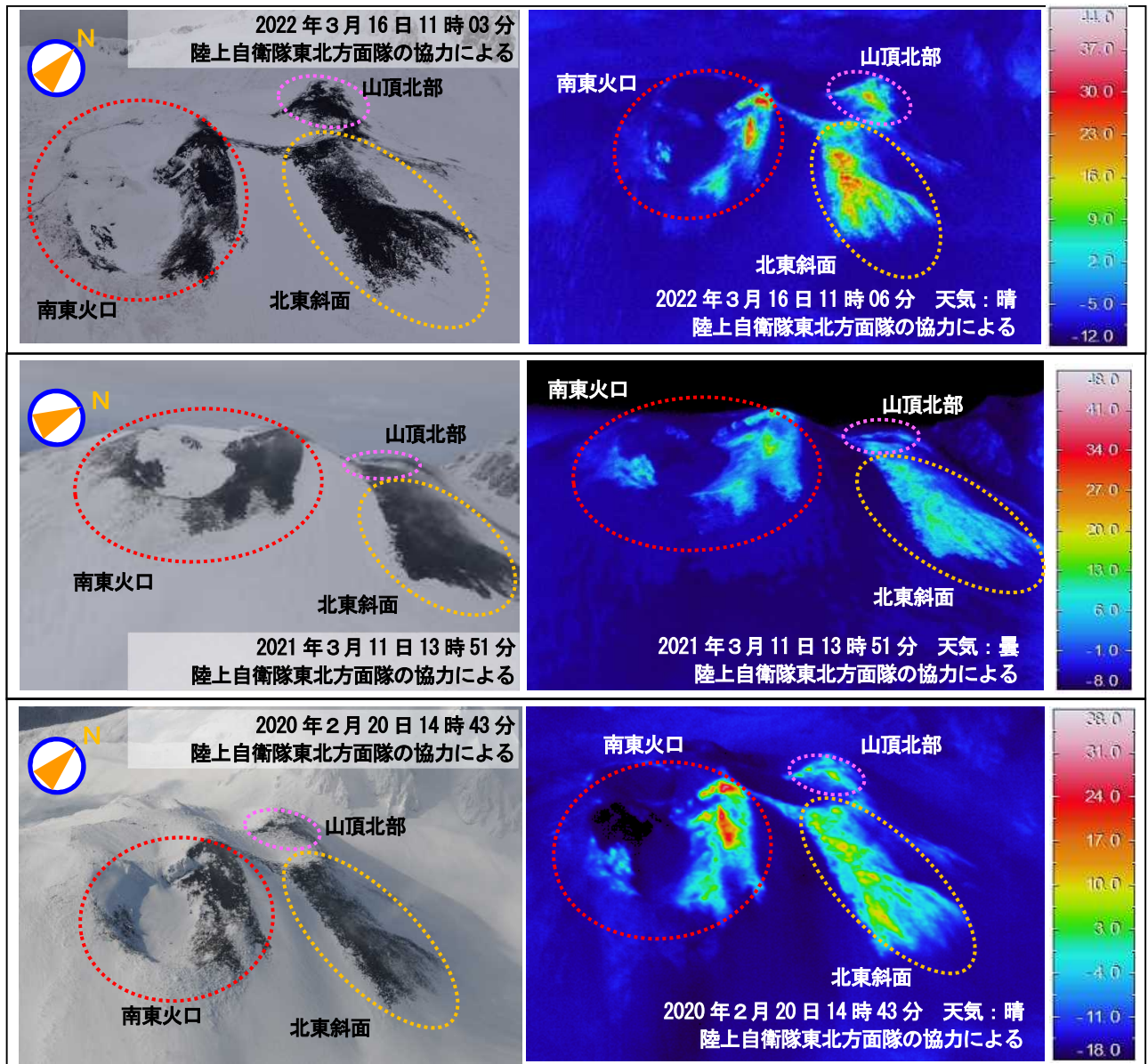


図9 秋田駒ヶ岳 上空からの南東火口の状況と地表面温度分布

- ・図中の破線の色は、図2の破線の色に対応します。
- ※日射の影響により、裸地等では表面温度が高めに表示されています。
- ※2021年、2020年の観測では、雲や噴気等の影響により、今回の観測に比べて温度がやや低めに表示されていると考えられます。

南東火口の地熱域の状況に大きな変化はなく、目視による観測では噴気の状態に特段の変化は認められませんでした。

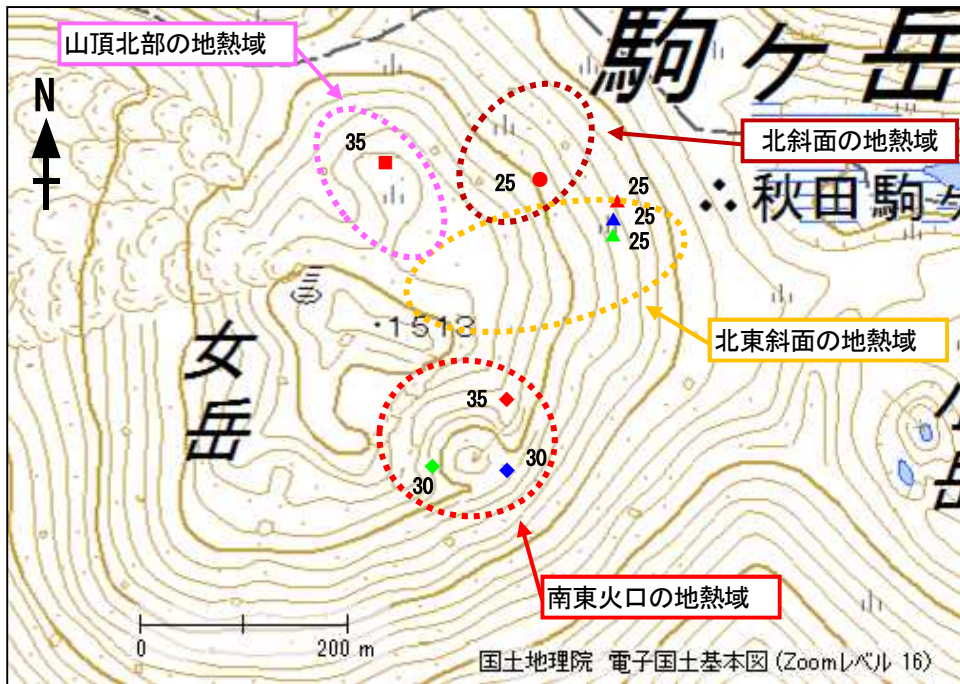


図10 秋田駒ヶ岳 女岳の地中温度測定位置

※図中の■●▲◆は測定位置を示し、図11の形と色に対応しています。  
 数字はこれまでの平均的な測定深度 (cm) を示します。

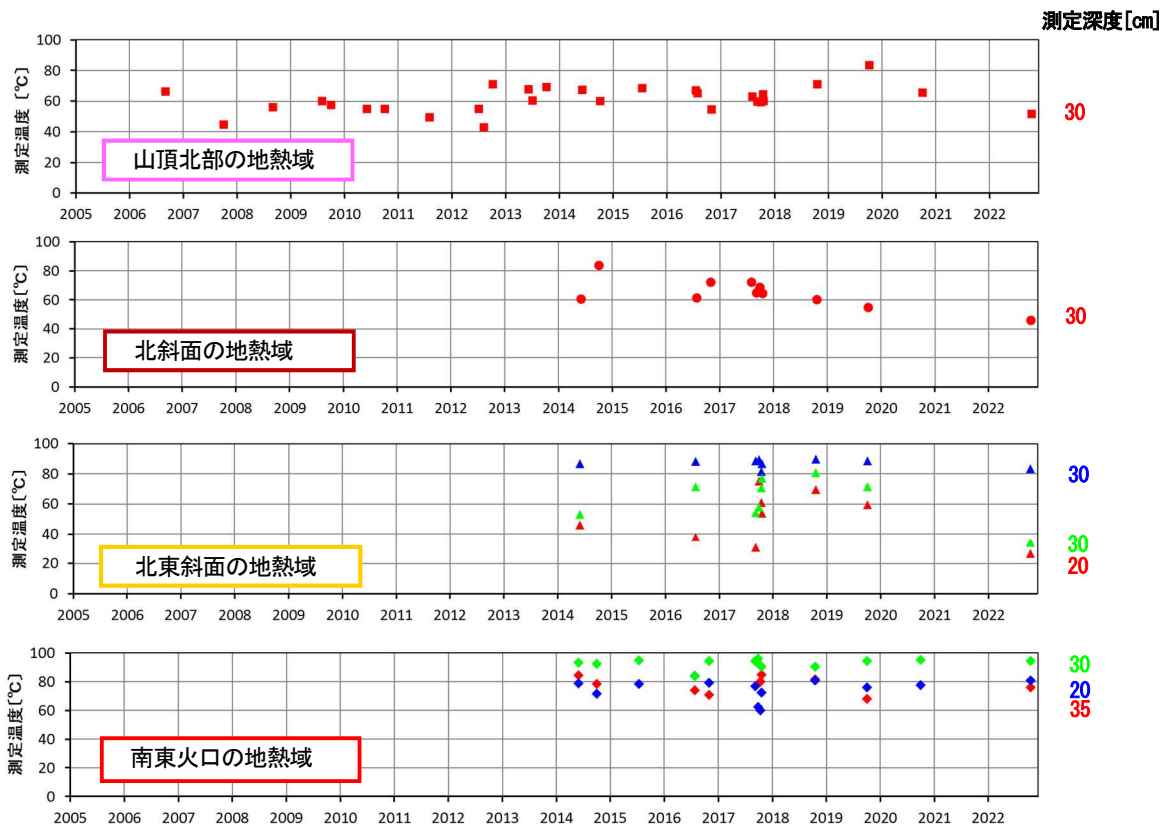


図11 女岳の地熱域における地中温度 (2005年7月～2022年10月)

※測定位置は図10に対応します。  
 ※図の右端の数字は10月13日の測定深度[cm]を示します。

これまでと比較して地中温度に大きな変化は認められませんでした。

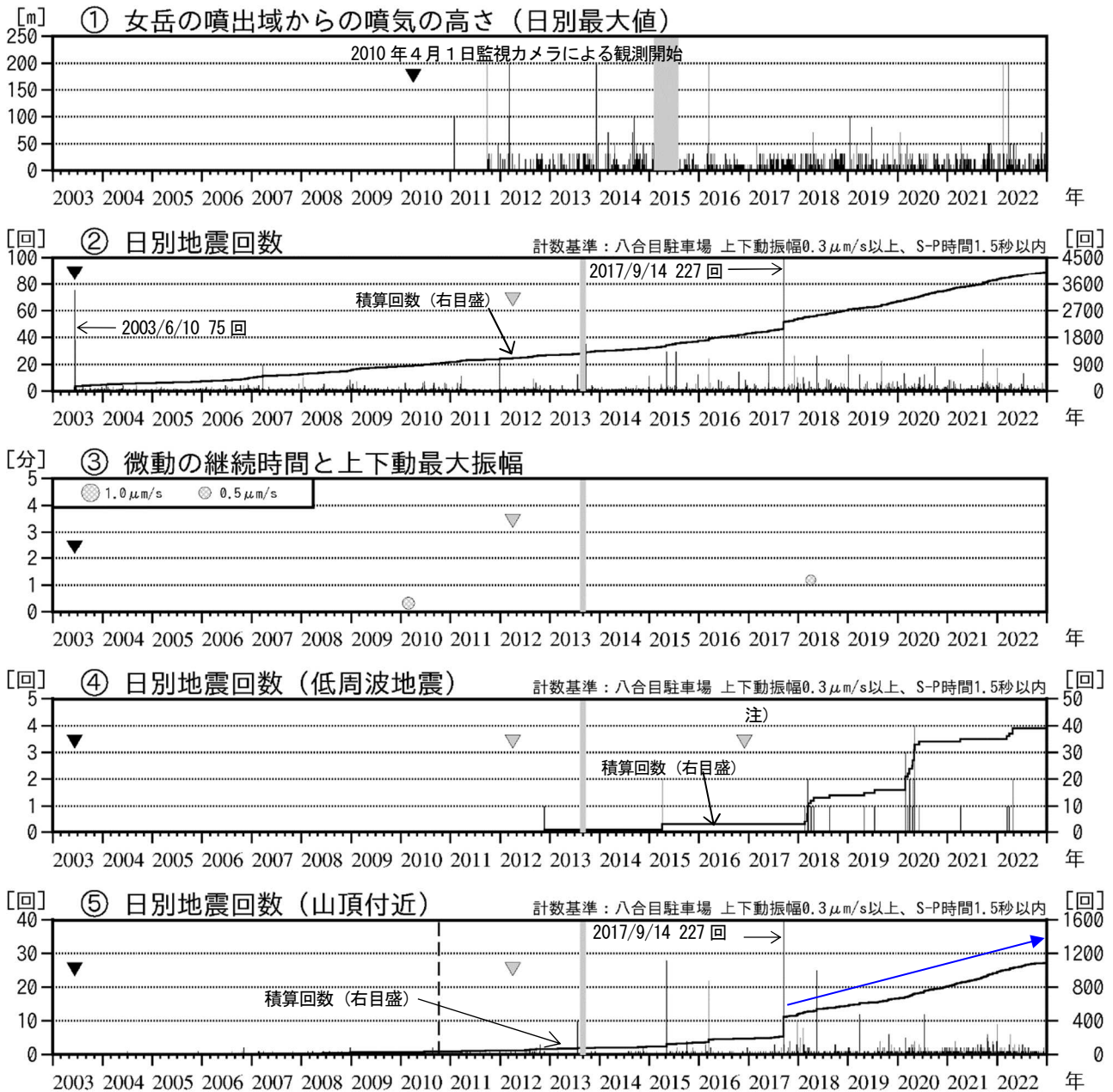


図12 秋田駒ヶ岳 火山活動経過図（2003年6月～2022年12月）

- ・地震計数に使用した観測点は次のとおりです（角カッコ内は地震回数の計数基準）
- ▼観測開始 2003年6月9日～東北大学秋田駒ヶ岳観測点 [振幅0.5 $\mu$ m/s以上、S-P時間1.5秒以内]
- ▼ 2012年4月1日～八合目駐車場観測点 [振幅0.3 $\mu$ m/s以上、S-P時間1.5秒以内]
- 注) 姿見ノ池西観測点の運用開始（2016年12月1日）以降、検知力向上により低周波地震を判別しやすくなっていると考えられます。
- ・⑤は「山頂付近」で発生したと推定される地震の回数を示しています（「山頂付近」は「女岳付近」の回数も含みます）。2010年10月の八合目駐車場観測点運用開始（グラフ中の破線）以降は、山頂近傍に観測点が配置されたことにより、山頂付近で発生している地震を概ね判別できていると考えられます。
- ・図中灰色部分は欠測を表しています。

山頂付近では、2017年9月以降、火山性地震の発生頻度がやや高い状態で推移しています（⑤青矢印）。

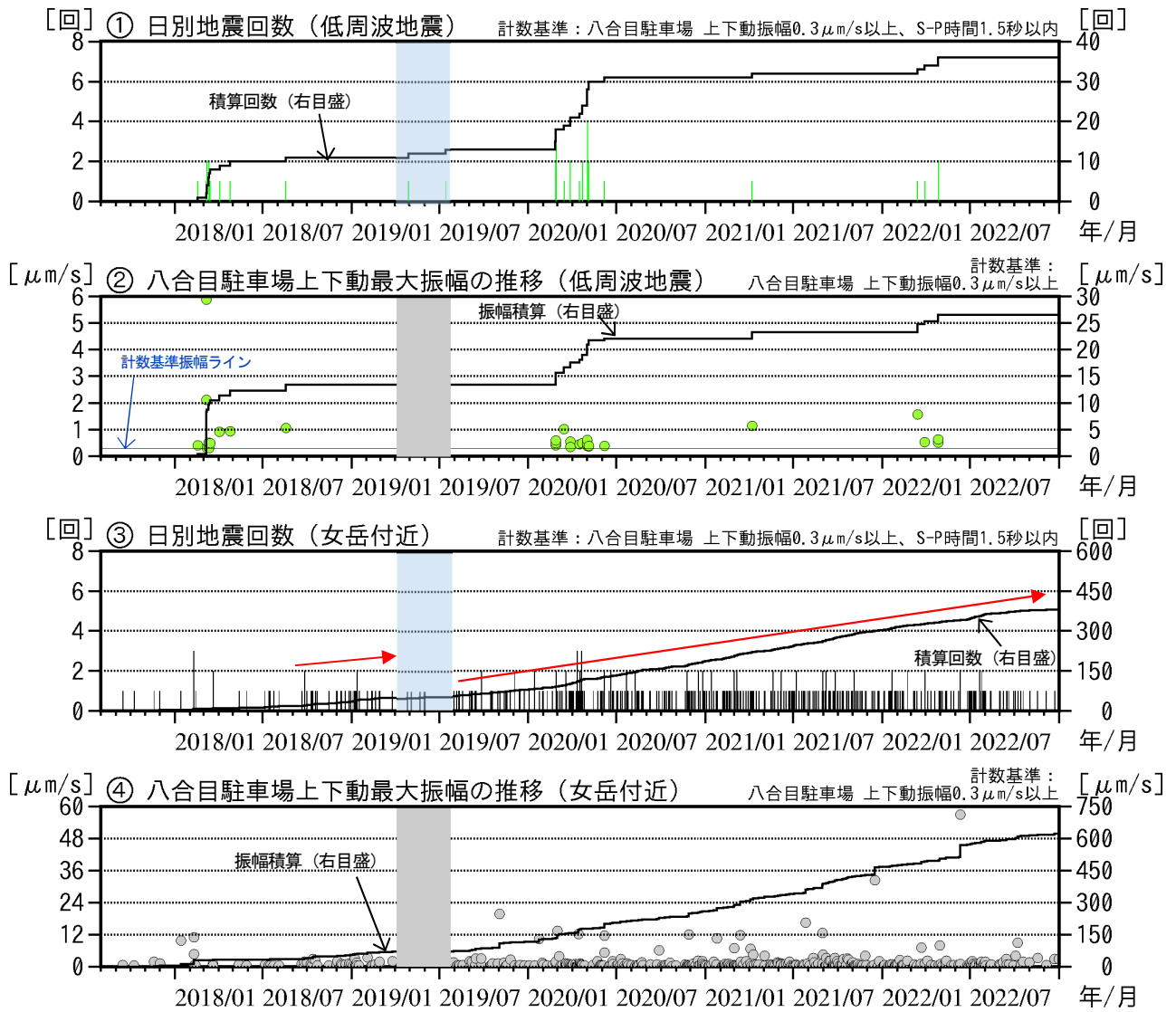
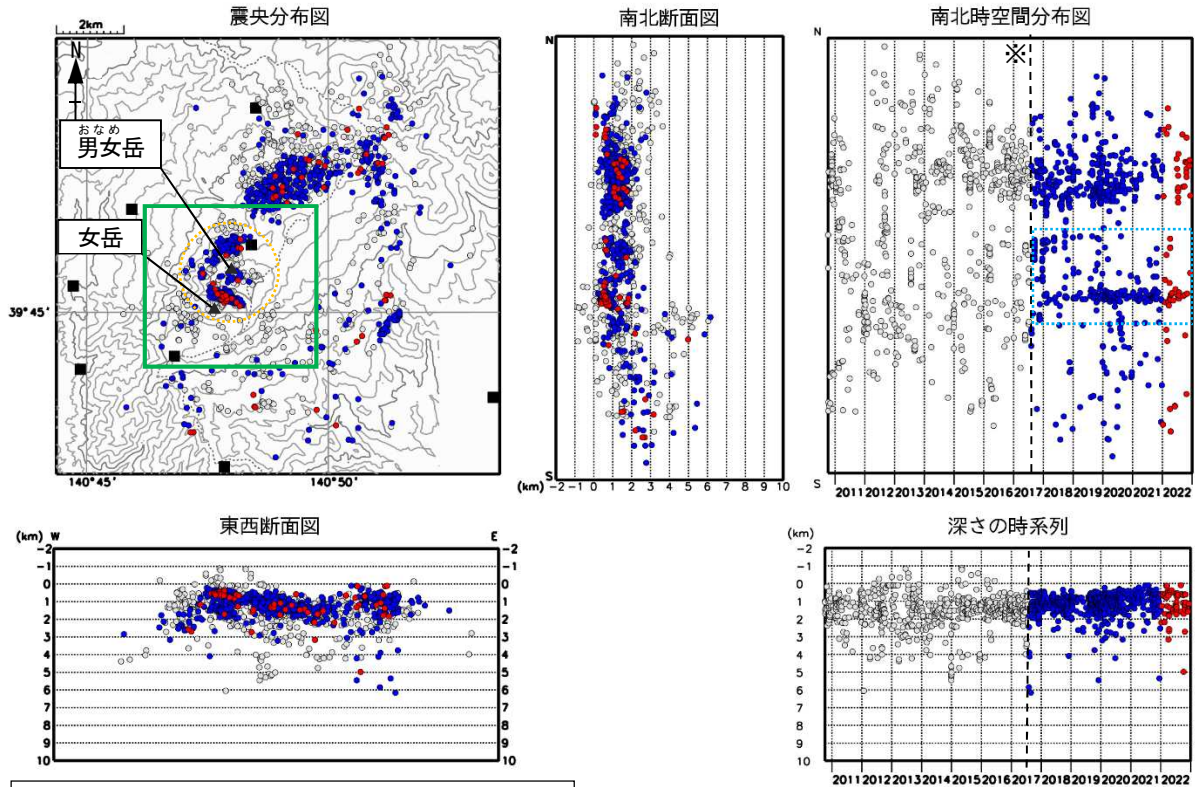


図13 秋田駒ヶ岳 低周波地震及び女岳付近の日別回数と最大振幅（2017年8月～2022年12月）

・灰色部分は八合目駐車場観測点の欠測期間を示しており、それにより地震の検知力が低下している期間を青色で示しています。

山頂付近が震源と推定される規模の小さな低周波地震が3月及び4月にそれぞれ2回発生しました。2018年9月頃から女岳付近の地震の発生頻度がやや高い状態で推移しています（③赤矢印）。

秋田駒ヶ岳(広域)2010年10月7日～



秋田駒ヶ岳(山頂付近拡大)2017年8月1日～

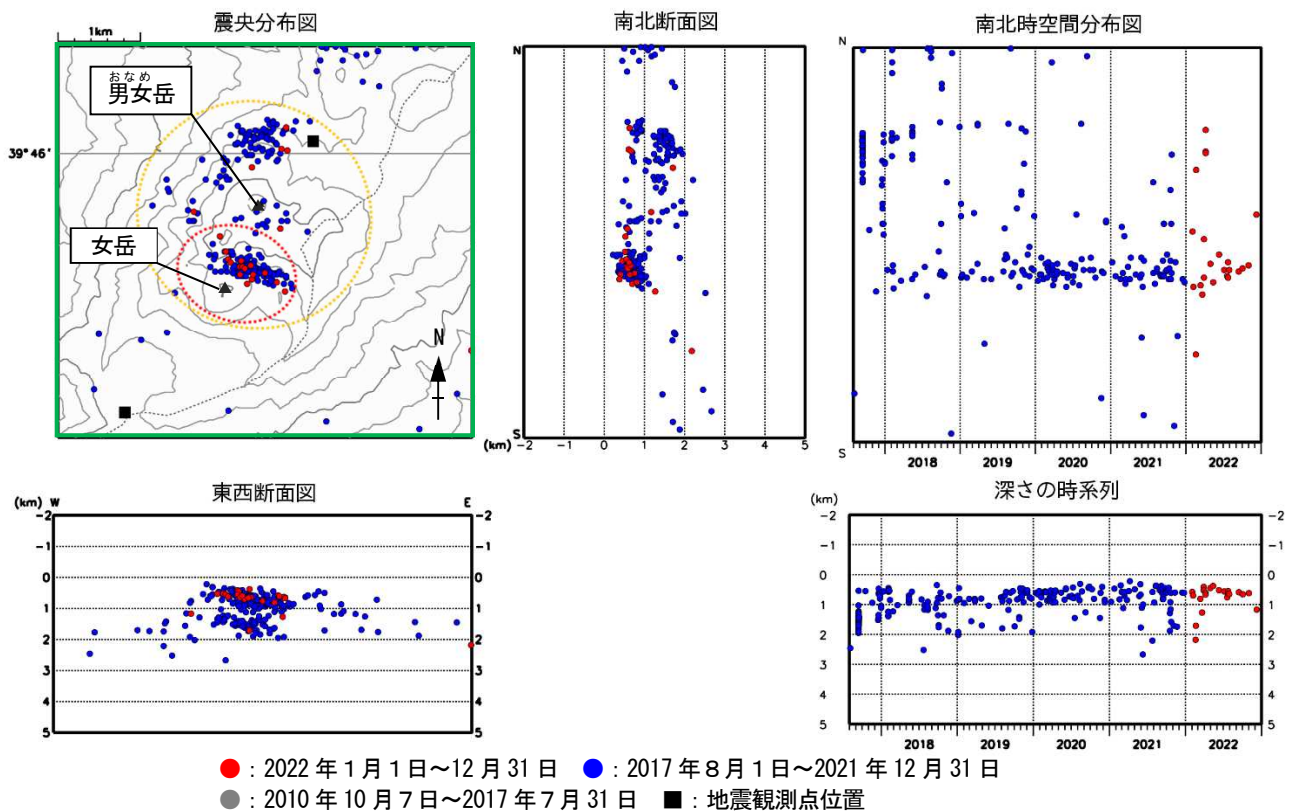


図14 秋田駒ヶ岳 地震活動 (2010年10月～2022年12月)

・ 橙破線及び赤破線の領域は、それぞれ「山頂付近」及び「女岳付近」としたおおよその領域を示しています。  
 ※ 2017年8月1日から姿見ノ池観測点を震源計算に使用しているため、山頂付近の震源のばらつきがそれ以前より小さくなっています (水色破線)。

女岳付近の火山性地震は継続していますが、今期間は少ない状態で経過しました。  
 震源が求まった女岳付近の火山性地震は今期間16回で、深さは約0.5kmから1.5kmでした。

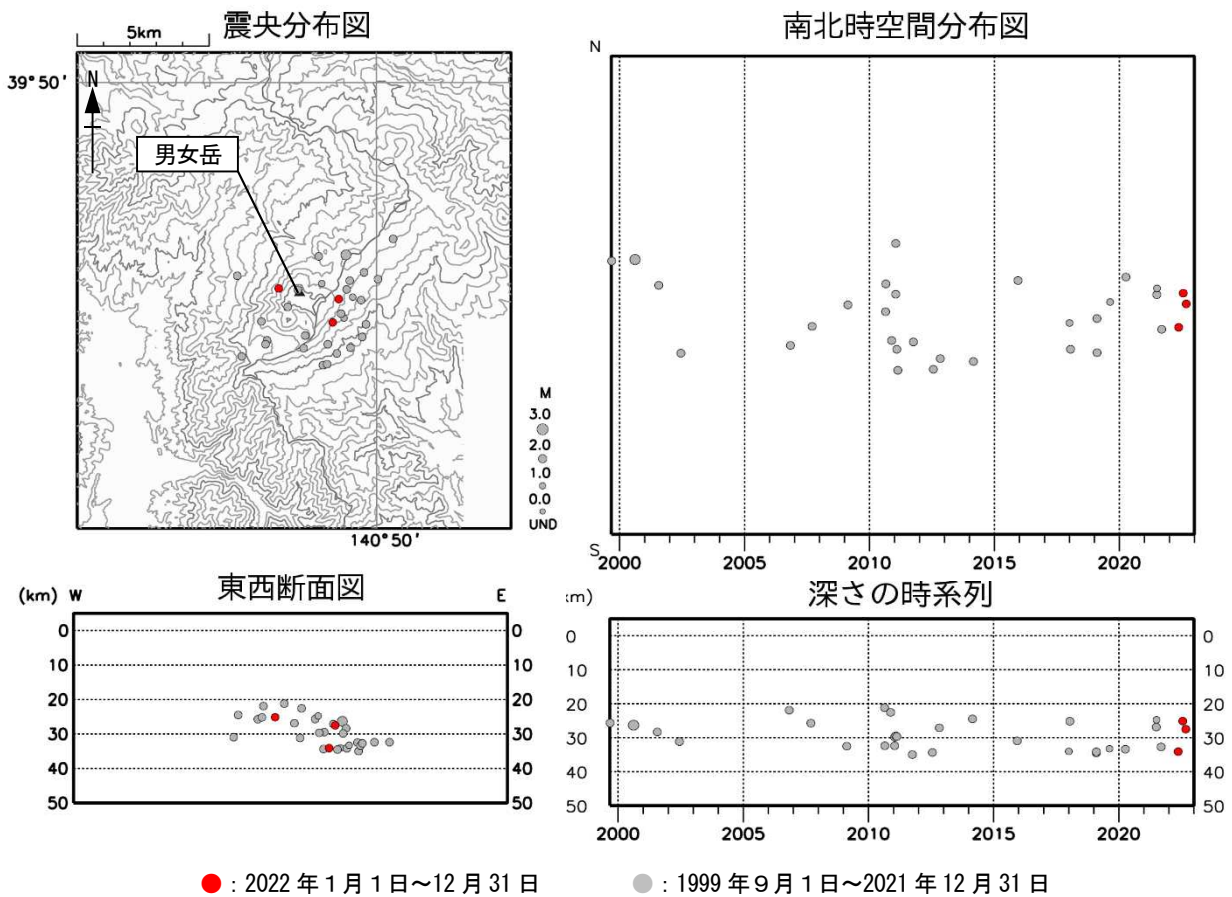


図15 秋田駒ヶ岳 広域地震観測網による深部低周波地震活動（1999年9月～2022年12月）

- ・ 2001年10月以降、検知能力が向上しています。
- ・ 2020年9月以降の震源は、地震観測点の標高を考慮する等した新手法で求められています。

深さ 20～40km 程度の深部低周波地震は少ない状態で経過しました。

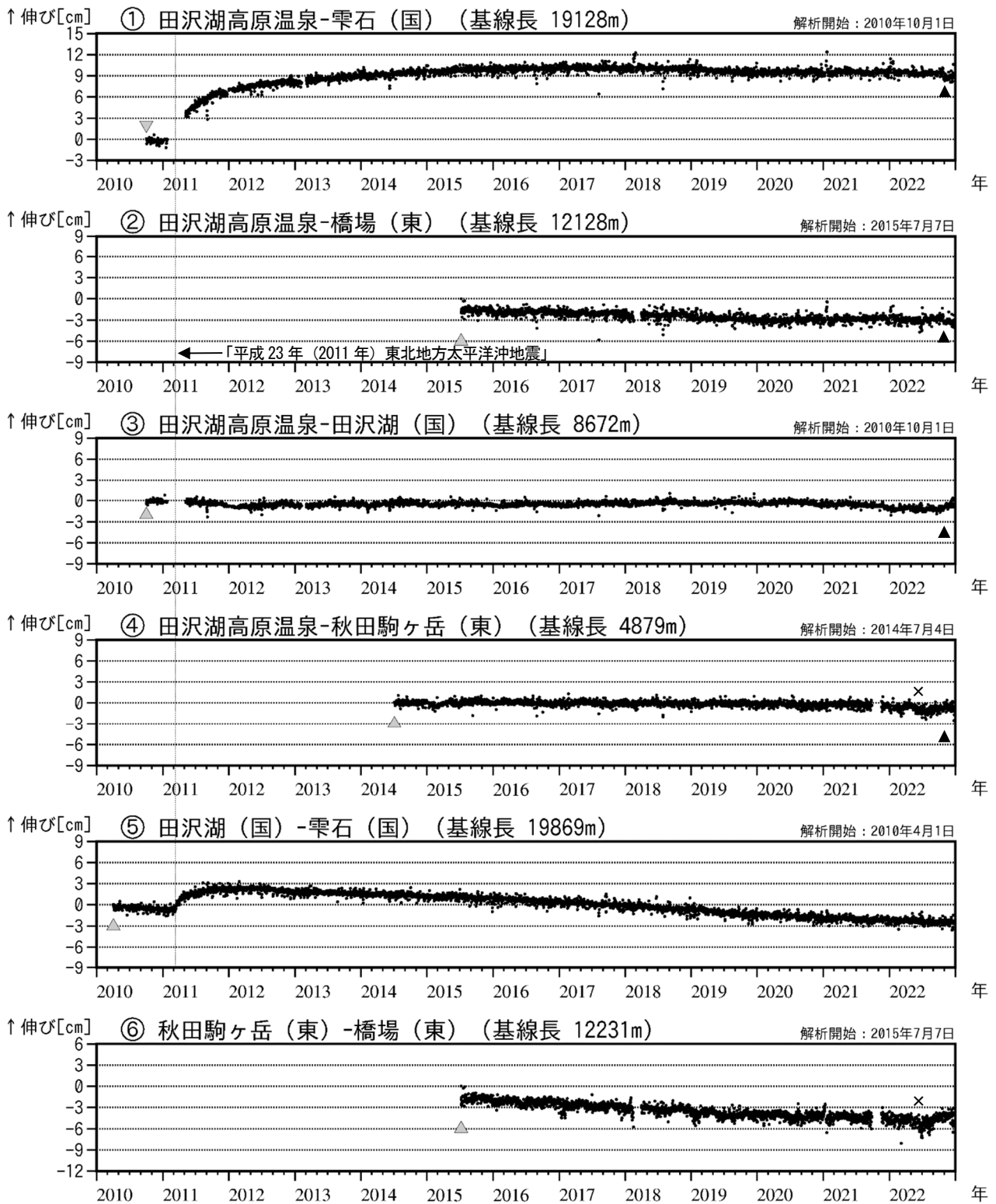


図 16 秋田駒ヶ岳 GNSS 基線長変化図 (2010 年 4 月～2022 年 12 月)

- ・①、⑤は「平成 23 年 (2011 年) 東北地方太平洋沖地震」に伴うステップを補正しています。
- ・①～⑥は図 18 の GNSS 基線①～⑥に対応しています。
- ・空白部分は欠測を示します。
- ・(国)は国土地理院、(東)は東北大学の観測点を示します。
- ▼▲：解析開始を示します。
- ▲：田沢湖高原温泉観測点の機器更新を行いました。
- ×：秋田駒ヶ岳 (東) 観測点に起因する変化で、火山活動によるものではないと考えられます。

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。



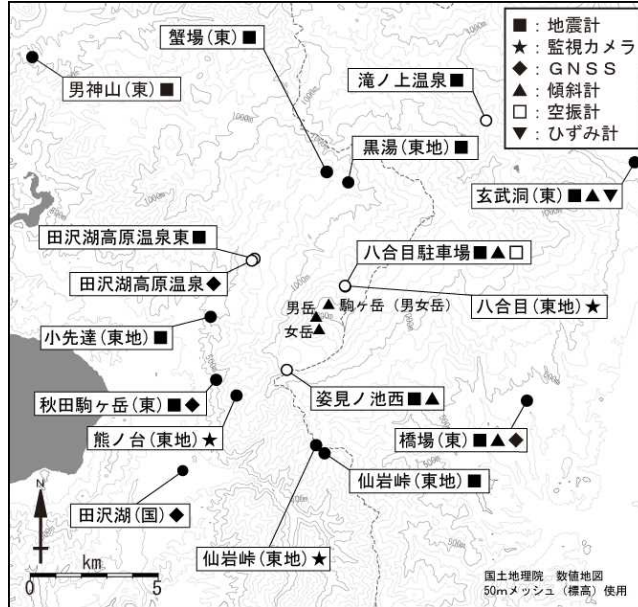


図 17 秋田駒ヶ岳 観測点配置図

白丸 (○) は気象庁、黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

(東地) : 東北地方整備局 (国) : 国土地理院 (東) : 東北大学

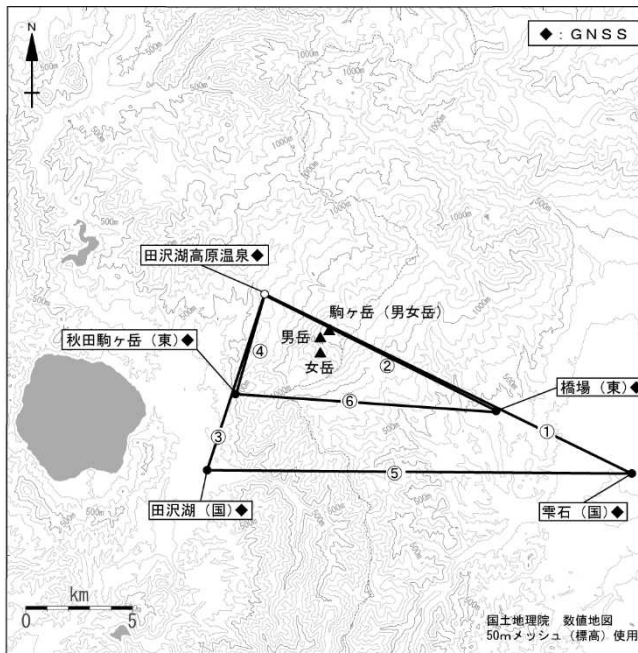


図 18 秋田駒ヶ岳 GNSS 観測基線図

白丸 (○) は気象庁、黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

(国) : 国土地理院 (東) : 東北大学

表 1 秋田駒ヶ岳 気象庁観測点一覧

観測種類	観測点名	位置			設置高 (m)	観測開始日	備考
		北緯	東経	標高 (m)			
地震計	田沢湖高原温泉東	39° 46. 65′	140° 45. 93′	690	-1	2008. 10. 08	
	滝ノ上温泉	39° 49. 54′	140° 52. 36′	629	-1	1999. 07. 28	
	八合目駐車場	39° 46. 07′	140° 48. 41′	1305	-100	2010. 10. 07	
	姿見ノ池西	39° 44. 30′	140° 46. 81′	1079	-2	2016. 12. 01	広帯域地震計
空振計	八合目駐車場	39° 46. 08′	140° 48. 41′	1304	3	2010. 10. 07	
傾斜計	八合目駐車場	39° 46. 07′	140° 48. 41′	1305	-100	2011. 04. 01	
	姿見ノ池西	39° 44. 30′	140° 46. 81′	1079	-15	2016. 12. 01	
GNSS	田沢湖高原温泉	39° 46. 61′	140° 45. 85′	671	5	2010. 10. 01	